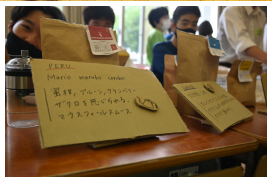
けやき祭で地域活性化

前橋市立前橋高等学校
めぶく
地域活性化プロジェクト

前橋の商店とコラボ
探究学習における「実践」を果たす
地域と協働

6月4、5日の2日間にわたり、第23回けやき祭が開催された。昨年度より目標に掲げていた「地域の商店とのコラボレーション」を達成することができた。この取り組みは「実践」を意識し、探究学習の深化を目指すためである。1年生は、担当する各商店へのインタビューを行い、打ち合わせをし、一般公開なしという形をとったけやき祭で、何ができるかを模索し実践した。2年6組は1年次のフィールドワークでの経験を活かし、前橋中心商店街の活性化を意識した動画を作成し発表を行った。これらは、本校初の試みであり、勇気ある挑戦となった。

1年1組は「MONSOON DONUTS」（住吉町）と「まえばしハニープロジェクト」（千代田町）を担当し、店舗紹介と代理販売を行った。ドーナツの売れ行きは好調で2日目は購入権を得るためのじゃんけん大会を行うほどだった。商店との交渉を担当した岡村玲翔君（南橘中出身）は「よく通る場所だが、そこでドーナツを売っていると知らなかった。店の雰囲気が素敵だった。店主の方が優しく協力的で、打ち合わせがうまく進んだ」と話した。また、「まえばしハニープロジェクト」にインタビューを行い、商品納入を担当した岩田咲恵さん（六中出身）は「前橋の商店街に蜜源を設けていることを知り、養蜂は山奥でやるものというイメージが変わった」と話した。ハチミツが完売し嬉しかったという。



優秀賞を受賞した1年3組（上）お茶淹れ体験の様子（右下）1年2組のコーヒー豆の紹介（真中下）1年5組の様子（左下）

2の6は動画で商店街をPR
恩返しになれば

2年6組はクラス企画として、前橋中心商店街を活性化するという視点を持ち、動画の発表を行った。来場者はただ動画を見るだけでなく、途中で出題される商店に関するクイズにクロームブックで答えるという参加型の形式であった。動画作成の協力をしてくれた店舗は中央通りの「パーラーレストランモモヤ」「なか又」「シャトア」「だんごの美好」「もみやま食堂」。動画では、生徒がインタビューをしている様子や商品の紹介をする。レポーター役を務めた黒川莞純君（木瀬中出身）はこの企画をやることになった経緯について「1年生の時、フィールドワークでお世話になった商店街の方たちに少しでも恩返しができたらいいと思った」そうで「商店の売り上げに貢献するPR動画になってほしい」と話す。「パーラーレストランモモヤ」でナポリタンの食レポを行った山田一颯君（子持中出身）は「学校内での開催にはなってしまったが、商店の魅力を校内に知らしめることができて良かった」と笑顔を見せた。審査の結果、2年6組は優秀賞を受賞した。動画は本校イチマエチャンネルで公開中。

探究通信
第3号
けやき祭
特別号
R3.6.15

→ＨＰ

1年2組は「ROBSON COFFEE」（上小出町）を担当した。豆を仕入れ、来場者自身に、店舗から借りたミルで豆を挽いてもらい、コーヒーを淹れる体験をするという形での販売を行った。クラス内でSNS班を作り、生徒が店舗の効果的な宣伝の仕方を模索した。その試みは、クラスの企画の進捗状況を店舗と共有することや店舗の宣伝にもつながるなど様々な効果をもたらした。小野沙蘭さん（六中出身）は「インタビューに伺ったときにお客様に快適さと安心感を提供する雰囲気作りをしている」と感じたそうで、クラスでもその理念と魅力を感じられる企画展示を心がけたと言う。来場者を呼び込むためのチラシづくりを主に担当した寺山月愛さん（吉岡中出身）は「実際に店に行きたいという生徒たちの声を聞き嬉しくなった」そうで、店舗に貢献できている実感を得たようだ。

3組が優秀賞

「駒井園」（本町）を担当した1年3組が優秀賞（各学年でテーマと目的に合った優れた発表をした1団体ずつが表彰される）を手にした。3組教室に入ると、商品の説明が書かれたメニューから30円、20円、10円の茶葉いずれかを選ぶ。その後お茶に関するクイズを解いていき、正解数によって、値引きされるシステムである。その後、3組生徒による、美味しいお茶の淹れ方のレクチャーを受けながら、自らで淹れたものを購入して飲むという形式であった。3組の生徒は、事前にお茶の淹れ方を店主の駒井健一郎さんに教わってきて、それをクラス全体で共有した。教室内では駒井さんがお茶を淹れる映像を電子黒板でも流していた。また、茶器はすべて店舗から借していただき全面的な協力を受けた。お茶の扱い方に関して直接指導を受けに行った丸山夢路君（GKA出身）は、「今回の企画を通して様々な場面で人とコミュニケーションをとる大切さを知った。企画に関して心配な面もクラスのチームワークで乗り切った」と話す。教室を飛び出して、茶葉の事前販売に尽力した福井智教君（南橘中出身）は「普段できない体験ができた。お茶の淹れ方を体験してもらい、魅力を共有することができた」と達成感を抱いたようだ。

1年4組は「ともの店」（下小出町）を担当し、チーズケーキの代理販売やSDGsに関するクイズを行った。松井華月さん（大胡中出身）は「販売個数の設定が難しかったため、引換券の制度をつくるなど工夫をした。当日販売でも予想以上に売れて嬉しかった」と話した。

1年5組は「わがじゃん」（千代田町）と「くるみの森」（下細井町）を担当した。商店街フィールドワークを1年次に行った3年生と一緒に「わがじゃん」に行った渡部凱君（新里中出身）は「交渉は緊張した。商品を調査し、写真を撮ってクラスに持ち帰った。相談を重ね、ディスプレイの工夫などを考えた」そうだ。パンの代理販売時には、長蛇の列を作り、大盛況であった。鈴木優良さん（前橋三中出身）は「くるみの森のパンランキングを作って購買意欲を喚起した。販売する体験は楽しかった」と話した。

販売なしでもコラボレーション

1年6組は「小出商店」（千代田町）と「喫茶こまち」（本町）を担当し、唯一販売がなかったクラスである。「小出商店」でインタビュー行った深澤夢奈さん（榛東中出身）は「85年という歴史を持つ、商店街の変遷を知っているお店だった。店舗に足を運んでもらうためにクイズ形式の発表をした」と話す。神林侑加さん（一中出身）は商品を販売できないという条件のもと、「喫茶こまち」の雰囲気をどのようにクラスで再現するかということに頭を悩ませた。「インタビューに行った時に、店主の北原さんが厩橋CHINDON倶楽部の理事長をしていることを知り、思い切ってちんどんの道具を貸してくれないか交渉しました」と話す。当然自力では運ぶことができないので、家族に車を出してもらい、学校まで運んだ。教室中央に展示された太鼓などを見て「すごい」と言う生徒たちの声を聞き、達成感を得られたという。

今回1年1組が担当した「まえばしハニープロジェクト」とコラボを果たしたわけだが、昨年度、本校2年次に行う「前橋市高校生模擬議会」で昨年度、2年3組（現3年生）がある提言を行っていた。その時は「まえばしハニープロジェクト」について言及はしなかったが、けやき祭で「つながり」ができたということもあり、連携して前橋の地域活性化につなげていきたい。

〈令和2年度前橋市高校生模擬議会 質問一覧表〉より
2−3組
前橋市といえばこれといったものがなく、訪れる人が少ないので、私たちは、はちみつを使った商品を地元の農業高校や農家さんと協力して生産しようと考えていますが、意見をお聞かせください。
-答弁者は農政部長。内容は割愛。写真は昨年度模擬議会でのもの。

最後に

本校では探究学習において、前橋中心商店街フィールドワークを行ってきた。しかし、1年生はそれをやらずして今回のけやき祭を迎えた。担当の商店にインタビューをし、商品納入の交渉をし、クラスの中でその商店の魅力をどのように発信し、どのようにコラボしていくかを考え、形にするという実践を成功させた。なお、けやき祭の様子は上毛新聞と群馬TV（上QR）でも紹介された。